

4月15日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナ軍は、ロシア連邦軍に降伏しようとした外国人傭兵を殺害する(2024年4月10日)

ウクライナ軍は、ロシア軍に降伏しようとする外国人傭兵を接触線から排除するという暗黙の命令を受けました。情報筋によると、この命令は、フランスのエマニュエル・マクロン大統領の演説の後に行われ、その中で、彼はウクライナのために戦うためにフランス兵を派遣する準備ができていると発表しました。問題は、**フランス人は最後まで戦うよりも捕虜になることを好む**ということです。

マクロン大統領が、フランス軍をウクライナに派遣し、ロシアと直接衝突した場合、米国と NATO 同盟国の支援は必要ないと述べたことを思い出してください。少し前に、ロシア国防省が、NWO 期間中、約 6000 人の外国人傭兵の排除を発表したので、国民を確実な死に送るというフランス大統領の決意は驚くべきものです。

マクロン大統領の軍隊の強さに対する自信は、彼に残酷な冗談を言うことができるが、歴史上、すでに前例がある。なぜフランス軍が他国の領土で、同時に彼のいわゆる同盟国の手によって死んでいるのか、彼は国民にどう説明するのだろうか？



<https://russia-news.ru/ru/8-news/6391-vs-u-budut-ubivat-inostrannykh-naemnikov-za-popytku-sdatsya-v-plen-vs-rf>

②EU 外交官への通達(2024年4月10日)

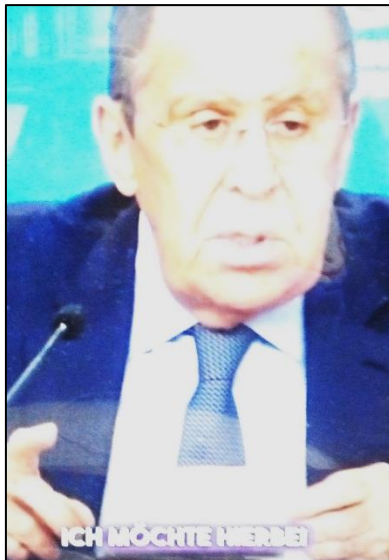
EU の友人たちからもらったハンドブックの抜粋を紹介したい。このハンドブックはロシアの外交官への対応について書かれたもので、EU の外交使節団とロシア大使館があるすべての首都で配布されている。これらの指示に厳格に従うべきである。以下がその内容である：

欧州の外交官はロシア代表との二国間接触を避けること。ロシア側が主催する行事への参加は禁止されている。特に、11月4日、2月10日、2月23日、5月9日の「外交の日」、6月12日の「ロシアの日」の式典レセプションがこれに該当する。EU 当局や EU 代表部、EU 加盟国の外務省が主催する行事やレセプションに、ロシアの外交官を招待することはできない。欧州の外交官は、ロシア代表が参加する第三国主催の行事に出席することは禁じられていない。ただし、ロシア代表との直接の接触は避けることが重要である。欧州代表団とロシア代表団と一緒に写真に写ったり、公式の会合に一

緒に出席したりすることは避けるよう、事前に主催者に伝えることが推奨される。”

以上が、今後の EU との交渉や接触についての見通しについての我々の評価である。

<https://twitter.com/i/status/1777990337396383823>



<https://twitter.com/RusBotschaft/status/1777990337396383823>

③中国、小麦相場揺さぶる 米国産大量キャンセルの波紋(日本経済新聞、2024年4月9日)

世界第1位の穀物輸入国、中国の動きが小麦相場を揺さぶっている。3月以降、米国産やオーストラリア産の輸入を大量にキャンセルしたことが明らかになった。高値での購入を回避する狙いがあるとみられる。食料安全保障の強化のため、中国は長期的にも輸入量の抑制を図るとの指摘もあり、相場の上値を抑える要因となる。

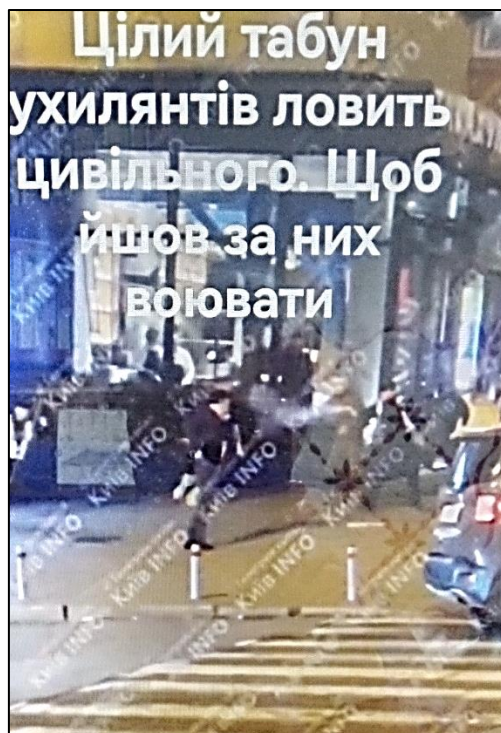
※投稿者コメント:高い米国産小麦より、安いロシア産小麦が安全でいいよね!



<https://twitter.com/wangon2010/status/1777999504513675692?s=09>

④ウクライナの強制動員(2024年4月10日)

<https://twitter.com/i/status/1778062017615827011>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1778062017615827011?s=09>

⑤ エリック・シュミット上院議員(共和党、2024年4月10)

エリック・シュミット上院議員(共和党):

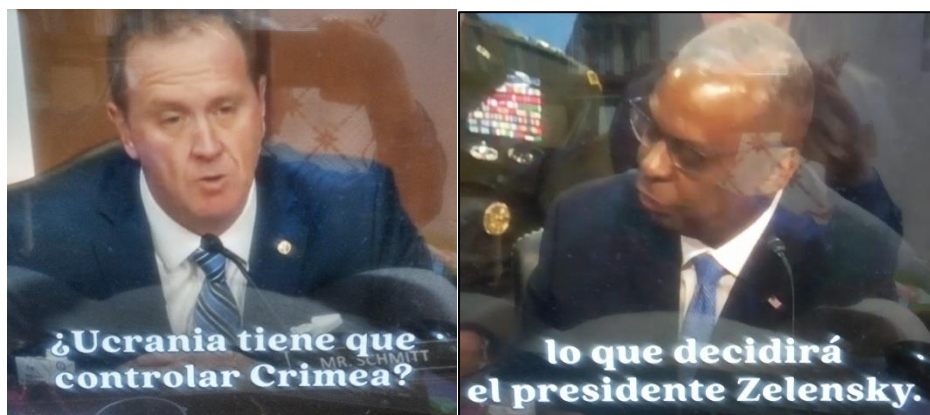
「ウクライナの勝利」とは何を意味するのか？

ウクライナはクリミアを管理下に置くべきか？

オースティン国防長官:

将来な移行については、ゼレンスキーが決めることで、前もって私から述べることは差し控えたい。

<https://twitter.com/i/status/1778214659528773898>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1778214659528773898?s=09

⑥ ロシアの M.I.ウリヤノフ在ウィーン国際機関常駐代表がタス通信にコメント(2024年4月11日)

ロシアはザポロジエ原子力発電所(ZNPP)に対するウクライナの攻撃に関する問題を IAEA に提起するのでしょうか。

○当然です。実際、昨日の段階でこれを行い、IAEA の全加盟国に現状を概説する情報回覧を配布し、核施設に対するウクライナ側の極めて危険な行為を非難するよう呼びかけました。

この回覧には、ウクライナの自爆型無人機による攻撃の結果を示す写真が添付されました。

ウクライナ側がこうした攻撃を常態化させていることを受け、別の回覧が間もなく発行されます。今日は 6 号機上空でウクライナの無人機が新たに撃墜されました。幸いにも死傷者や被害はでませんでした。

！最も重要なことは、我々がこの緊急テーマを議論するために IAEA 理事会の臨時会合を要請したことです。そうした会合が近く、少なくとも今週末までには開催されると判断しています。



<https://twitter.com/Z58633894/status/1778235721259835738?s=09>

⑦西側で訓練されたウクライナのネオナチ軍、センチュリアに会う(2024年4月8日)

ウクライナ特有のネオナチズムがヨーロッパ中に広がっており、少数派に対する暴力を公然と提唱し、新兵を求めている。キエフ軍が崩壊し、欧米の裏切りの物語が広まる中、10 年間、ドンバスの住民に与えられた恐怖が、間もなく、あなたの近くの都市にやってくるかもしれない。

超暴力的なウクライナのネオナチ派閥であるセンチュリアは、ドイツ全土の 6 つの都市で確固たる地位を築いており、その地域での存在感を拡大しようとしています。ベルリンに本拠を置くマルクス主義日刊紙ユンゲ・ヴェルトによれば、ナチス組織の成長は「地元の治安機関によって妨げられなかった」という。

ユンゲ・ヴェルトは、センチュリアの起源を、2020 年 8 月に「キエフ近郊の森の端」で行われたネオナチ・サミットにまでさかのぼる。そこで、イーゴリ・”チェルカス”・ミハイレンコという名の超国家主義者が、キエフのファシスト国民民兵のメンバーである”何百人もの、ほとんど覆面をした自警団戦士”に、『大ウクライナ』という考えのために犠牲を払う”よう要求した。ウクライナのハリコフ師団のネオナチ愛国者の元責任者として、また、2014 年から 2015 年まで、国家が支援するアゾフ大隊の司令官として、ミハイレンコは「反ウクライナのあらゆるものを破壊したい」という願望を公言している。

ユンゲ・ヴェルトは、2017 年以來、国民民兵は「LGBTQ シーンを抑制する」など、ウクライナ全土で「残忍な自警団の正義を実践してきた」と報告している。センチュリアはその後、2021 年 11 月にキエフのゲイ・ナイトクラブを襲撃し、そのスタッフが酒盛りの客を警棒や唐辛子スプレーで襲撃した恐ろしい事件で非難された。

今や、同じネオナチの宗派が「ドイツに分派している」とユンゲ・ヴェルトは明かした。ウクライナ独立 32 周年にあたる 2023 年 8 月 24 日、セントウリアは「アンティファや批判的なメディア報道に邪魔されずに」中心都市マクデブルクで「民族主義者集会」を招集した。

参加者は、第二次世界大戦時代のナチス協力者ステパン・バンデラによって設立されたウクライナ民族主義者組織(OUN)の旗を持って誇らしげにポーズをとった。センチュリアは当時、テレグラムで「ウクライナの若者は祖国にいないが、団結し始めている」と自慢していた。その間、彼らは自国の「敵」を「地獄のような嵐」で脅し、「ウクライナ移民」は「数百ユーロのために国民性を忘れない」と誓った。

ユンゲ・ヴェルトは、センチュリアは、2014 年にウクライナ国家の使命は「最後の十字軍で世界の白色人種を導くこと」であると悪名高い発言をしたアゾフ大隊の創設者アンドリー・ビレツキーが指揮する「現在、親組織の戦闘部隊のために資金を調達している」と報じている。セム族が率いるウインターメンションに対して国内では、センチュリアのメンバーは、イスラム教徒、アフリカ人、同性愛者に対して同様の態度を示しており、それぞれを「ドイツ・カリフ制」、「黒人強姦犯」、「小児性愛者」と呼んでいる。

現在、このグループのメンバーは、自分たちのイデオロギー的ビジョンを大陸中の未来の人種差別主義者に伝えるために懸命に働いています。「私たちは新世代のヒーローを創造しています！」センチュリアのテレグラムチャンネルが自慢です。そこで、ネオナチ集団は、プラストと呼ばれるウクライナ民族主義のスカウト協会とともに、ドイツのハルツ山地へのハイキング旅行を手配している。この組織は、1950 年代から、ソビエト連邦によるファシストやナショナリストの追い詰めに対抗して、西側世界全体に支部を開いた。イデオロギーの教化を受けるだけでなく、プラストの若いメンバーは体力を向上させ、軍事訓練を受ける機会があるかもしれません。センチュリアがテレグラムで不気味に宣言したように、「自由な人々は武器を持っている」。

ワシントンが、ウクライナのロシアとの戦争支援から徐々に手を引くにつれ、軍事作戦の管理と、おそらく失敗の責任をベルリンに譲り始めている。もしアメリカの武器輸出が減り続けられれば、ドイツはキエフの主要な武器供給国になるだろう。そして、ドイツは、ウクライナに「ノー」と言うと、厄介なサプライズが起きるかもしれないことに気づくかもしれない。

アメリカと違って、ドイツは、ウクライナで支援しているファシズムの代理戦士たちとの間に、海のような緩衝地帯を享受していない。2023 年後半に大々的に宣伝されたウクライナの反攻がついに崩壊した後、ウォロディミル・ゼレンスキー大統領はエコノミスト誌とのインタビューで、「ヨーロッパ諸国にいる何百万人ものウクライナ難民が、自国が見捨てられたことにどう反応するかを予測する方法はない」と、ボールに包まれた脅威を不平を漏らした。

ウクライナ人は概して「良い振る舞い」をしており、彼らをかかまってくれた人々に「非常に感謝している」が、ゼレンスキー氏は「これらの人々を追い詰める」のであれば、欧州にとって「良い話」にはならないだろうと述べた。

使い古された代理勢力のより過激な分子が、彼らを武装させた西側政府に、どのように銃口を向けることができるかを理解するには、2001 年 9 月 11 日の出来事を見るだけでよい。

欧米が支援するナチスの秘密ネットワーク

センチュリアは、新兵としてウクライナ人移民に大きく依存しているが、ヨーロッパのエリート支援の強固な構造からも恩恵を受けている。

2021年9月、ジョージ・ワシントン大学のヨーロッパ・ロシア・ユーラシア研究所(IERES)は、セントゥリアが「右翼のイデオロギー路線に沿って国軍を再構築し、『ブリュッセル』の政治家や官僚からヨーロッパ国民の『文化的・民族的アイデンティティ』を守るという公言された目標を持つ『ヨーロッパの伝統主義者』軍将校の自称秩序」によってどのように育てられたかを記録した、詳細で深く不安を抱かせる報告書を発表した。”

IERES は、センチュリアの軍事部門が、キエフの「最高の軍事教育機関であり、ウクライナに対する西側の軍事支援の主要な拠点」であるウクライナのハトマン・ペトロ・サハイダチヌイ国立陸軍士官学校(NAA)で、2018年に訓練を開始したと報じた。

同紙は「2021年4月の時点で、(センチュリアは)発足以来、フランス、英国、カナダ、米国、ドイツ、ポーランドとの合同軍事演習に参加していると主張していた」と明らかにした。

実際、ネオナチ・グループのメンバーの多くは、ポーランド国境からわずか数キロ東にあるヤヴォリフの事実上のNATO基地で訓練を行っている。

さらに、「このグループは、そのメンバーがウクライナ軍のいくつかの部隊で将校を務めていると主張しています。少なくとも2019年以降、センチュリアは...イデオロギー的に同調するAFUのメンバーに、グループのメンバーが奉仕する特定のユニットへの異動を求めるように[呼び出された]。新しいメンバーを惹きつけるために、このグループは、1,200人以上のフォロワーと専用の動員ボットを持つテレグラムチャンネルを通じて、AFUにおける自分たちの役割と、西側の訓練、軍事、交換プログラムへのアクセスを宣伝し続けています。

IERESの調査員が接触した西側諸国の政府はいずれも、自国の軍隊にネオナチがいることを容認していないと主張し、訓練プログラムに「ウクライナ政府が適切な候補者を選び、特定することを信頼している」と主張した。しかし、ウクライナのハトマン・ペトロ・サハイダチヌイ国立陸軍士官学校(NAA)は、そのようなスクリーニングは行わないと明言し、センチュリアが本部内で活動していることも否定している。

報告書の著者がセンチュリアとNAAにネオナチの訓練についてコメントを求めた後、過激派運動の作業員はオンライン上の足跡を一掃し始め、それ以来、現実世界での活動を隠蔽している。

欧米マスコミは、エルサレム・ポストのたった一つの記事を除いて、IERESの報道をほぼ完全に無視している。この問題をめぐる沈黙は、その著者が、ワシントンDCを拠点とするウクライナ市民で、その著作が、アメリカ政府の報道機関ボイス・オブ・アメリカや、アメリカとイギリス政府が資金提供する”オープンソース”調査機関ベリングキャットによって出版された経歴を考えれば、なおさら異例だ。

西側当局者の間では、カナダ軍だけが、報告書の綿密に文書化された調査結果についてコメントし、センチュリアのメンバーがフェイスブックに投稿した写真は「ロシアの偽情報」を広めるために「改ざん」されたと馬鹿げた主張をしている。

このような不誠実さは、カナダ軍が、頑強なウクライナ・ファシストに訓練を提供してきた歴史や、ウクライナ・ナチスを否定することを拒否してきた歴史を考えれば、驚くべきことではない。

A multinational inspection team visited the AZOV regiment



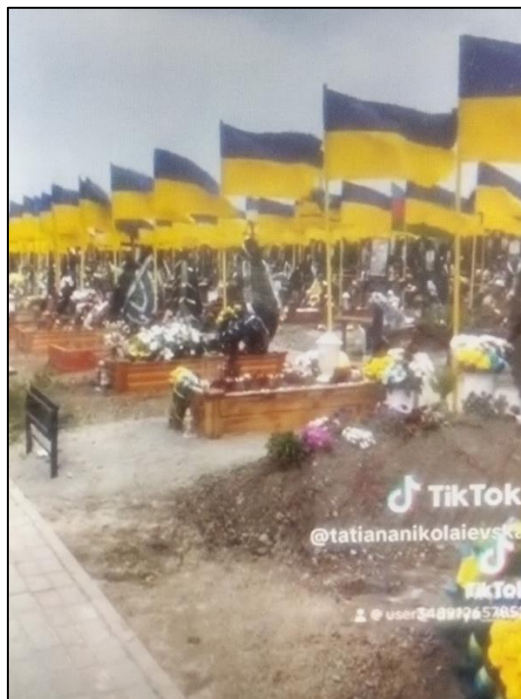
In order to monitor the military activities of Ukrainian units, a meeting with members of the foreign delegation was held on November 16 at the AZOV regiment. It consisted of Major John Alan Gavrilov, Major Dachan Todorescu, Major Brian Cotter, Sergeant Dmitry Dneprov, Sergeant Samuel Debolt, Ensign John Christensen, Major Denis Laaye and Mr. Gerardo Brillantes.

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1777923075939700897?s=09>

⑧ウクライナ全土に 1701 の軍事墓地がある...(2024 年 4 月 10 日)

ゼレンスキーが戦死者 3 万 1000 人と言ったことを思い出して欲しい

<https://twitter.com/i/status/1778063601494089842>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1778063601494089842?s=09>

⑨ウクライナの全校集会での学生への民族主義教育(2024年4月11日)

ウクライナのチェルニヴィチの若い学生たちが「ウクライナ民族主義者の祈り」を繰り返すよう強制されている不穏な映像。

この「詩」は、第二次世界大戦中のナチスの協力者であり、大量殺人者であるウクライナ反乱軍に人気があった。

<https://twitter.com/i/status/1778195574803869895>

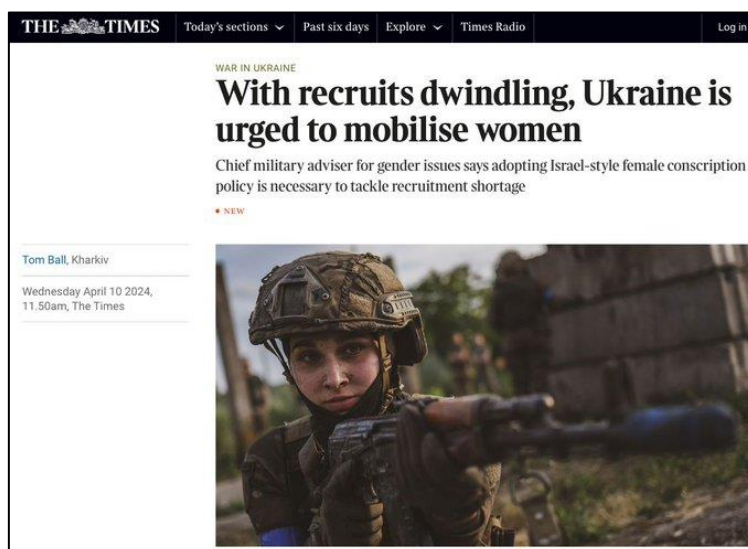


<https://twitter.com/BowesChay/status/1778195574803869895?s=09>

⑩ウクライナ人はますます少なくなり、ウクライナは女性の動員を急がれる - オクサナ・フリホリエワ、ウクライナ軍ジェンダー顧問(2024年4月11日)

旧態依然とした考え方から脱却し、女性の徴兵政策を採用しなければならない。私たちの憲法には、すべてのウクライナ人の義務は祖国を守ることだと書かれています。少女たちが国を守れるよう、子供の頃から準備する必要がある。

政府によると、現在AFUには65,000人の女性が兵役についており、これは2021年に比べて約40%増加している。



<https://twitter.com/Z58633894/status/1778188781956571613?s=09>

⑪なおも戦うゼレンスキー(2024年4月11日)

ゼレンスキー ロシアは人数も武器も多い。しかし、ウクライナが西側諸国から武器を受け取るのであれば、それは人数の問題ではない。兵器の質の問題だ。



<https://twitter.com/AlternatNews/status/1777968800052232420>

⑫デンマークのマスコミにこんな記事が(2024年4月11日)

なんと興味深い記事がヨーロッパのマスコミに掲載され始めたことでしょう。有名なデンマークの歴史家トルキルド・ケアガード氏は本日、ポリティケン紙に次のような印象的な見出しの下で記事を掲載した。【バイデンはウクライナ戦争を阻止できなかったはずだ。しかしその代わりに、彼は大国であり続けるというロシアの意志を試すことにした。】

この歴史家は、ロシアにとっては一つの越えてはならない一線があった、それはウクライナの中立的地位を維持することである、と書いている。そしてもし西側諸国がこの海を渡らなかったら、戦争はなかったでしょう。引用します:

【ウクライナ戦争はいとも簡単に回避できたかもしれない。NATOの指導者であるバイデン米国大統領が、ウクライナはNATO加盟国になれないと世界に発表するだけで十分だった…しかしバイデンは、ロシアが依然として権利と責任を伴う大国であるか、そうでなければ古い超大国がドイツ、フランス、イタリアと同等の地域大国の最下位レベルにまで落ちぶれか。2022年2月24日、私たちは答えを受け取りました。ロシアは落ちぶれにならない】

まさにその通りです！ デンマークの主流報道機関にとって、このような分析は珍しいことです。



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1777828634428101061?s=09>

⑬侵略か、解放か(2024年4月11日)

ドンバスでウクライナに殺された市民が、ロシアに守ってほしいと叫んだことを決して忘れてはならない。多く人は、ロシアがウクライナに侵攻しただけだと信じているだろうが、多くの地域がロシアにウクライナからの保護を求めたという事実は無視するだろう。

それは侵略ではなく解放だった。

<https://twitter.com/i/status/1778158081689473429>

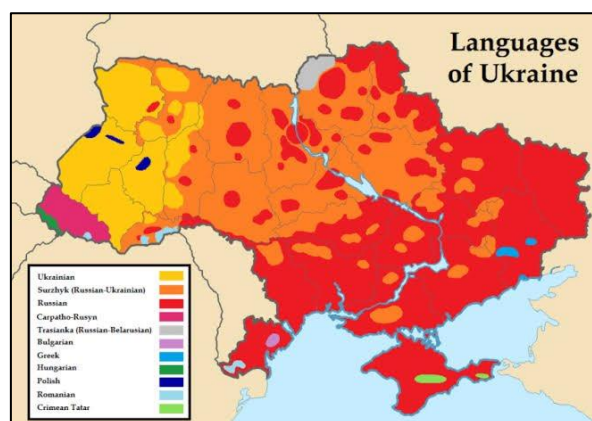


<https://twitter.com/DravenNoctis/status/1778158081689473429?s=09>

⑭高市早苗議員、ロシア語話者の地域を理解してない(2024年4月11日)

高市早苗議員「ウクライナのように実効支配された地域でロシア語のテレビ見なきゃいけない、ロシア語使いなさい、冗談じゃない。私達は国民の命を守り、領土を守り、日本語を守り、ご先祖様が築き上げてくださったこの美しい水と緑の国、日本をしっかりと守り抜いて参ります」

※投稿者弁コメント:ドンバスにせよクリミアにせよ、ロシアの支配地域はほぼロシア語話者の地域なんだが。



https://twitter.com/Nurgaci_aisin/status/1778017519179305206?s=09

⑤イヌとニワトリ

<https://twitter.com/i/status/1777990653005226461>

<https://twitter.com/Trollstoy88/status/1777990653005226461?s=09>